

日頃の備え

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというとき、あわてず行動できるよう家族で普段から話し合っておきましょう。また、災害に備えて家の中と外をチェックして、危険な箇所は早めに改善するようにしましょう。

家族で防災会議をしましょう

話し合いたい項目

- 集合場所、避難場所、避難経路
- 災害が起こったときの身の守り方
- 家の付近の浸水状況や、土砂災害の危険箇所の確認
- 家族が離れているとき、災害が発生した場合の連絡方法
- 家族一人ひとりの役割分担

家族の安否確認、非常持出品・非常備蓄品の準備・点検、避難経路の確保、隣近所への連絡など

※乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦などのいる家庭はその避難方法も話し合しましょう。



家の中の安全対策

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。

無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間にすき間があると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全にする。

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもや、お年寄りなどは逃げ遅れる可能性がある。

安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家の周囲の安全対策

屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。